

**第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会
事前アンケート結果 —各施設からの回答—**

Ⅲ. 施設内の緩和ケアの質の管理について …P 1

- 1) 現時点の取り組み状況
- 2) 「具体的な取り組み」や「工夫していること」

Ⅳ. 都道府県内の緩和ケアの質の向上について …P 8

- 1) 現時点の取り組み状況
- 2) 「具体的な取り組み」や「工夫していること」または「問題点」等

Ⅴ. 都道府県内の緩和ケアチーム等に関する教育支援について …P 12

- 1) 都道府県愛の緩和ケアチーム等を対象とした研修等、教育支援の実施
- 2) 上記で実施予定、「実施している（したことがある）」と回答した場合の教育支援の内容

**第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会
事前アンケート用紙 …P 16**

Ⅲ. 施設内の緩和ケアの質の管理について

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和ケアセンター・緩和ケアチームで定期的な活動を実施している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を評価している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を公開している	①緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み	②施設全体での取り組み
1	北海道がんセンター	○	○	○			院内の各部署の管理者が出席する会議で緩和ケアチームと緩和ケア外来、がん看護外来件数を報告し可視化している。	
2	青森県立中央病院	○	○	○	○	○	緩和ケアセンターには専従看護師5名を配置し、外来・病棟のスクリーニング結果への対応、緩和ケアチーム、緩和ケア看護外来、院内各部署や各職能団体等との連携、地域を含めた教育活動等に取り組んでいる。また、上記のような多岐にわたる業務に対応するため、ジェネラルマネージャーのほかにサブマネージャーを配置し、管理体制を整えている。問題点について、県内は緩和ケアの担当医師が不足し、医師の確保が困難な状況となっており、当院においては、診療応援医師(3名)の協力により緩和ケア外来を運営している状況である。また、今年10月からは専従医師が不在となっているが、後任の確保も困難な状況である。	院内の緩和ケア充実のために、緩和ケアチーム看護師やリエゾンチーム看護師等が連携してスクリーニング結果に直接介入する体制を整備している。また、緩和ケアの提供体制を評価するため、多機能端末で簡単にスクリーニングできるシステムを導入し、全がん患者のスクリーニングに活用しているほか、DPCデータとも連携し麻薬処方量や除痛率、スクリーニング実施率を診療科ごとに自動算出している。本結果は、委員会、会議、患者向けのニュースレターや県民公開講座等で報告し、PDCAサイクルでの評価に活用している。
3	岩手医科大学附属病院	○	○	○	○	○		
4	東北大学病院	○	○	○	○		週一回の小規模ワーキンググループ、月1回の全体会議にて院内緩和ケアの活動状況を議論しています。	苦痛のスクリーニングは国が求める「(入院・外来を含め)全がん患者」を対象に、「継続して」実施しています。緩和ケア研修会受講率も該当者に積極的に働きかけ、指定要件を満たすレベルまで改善できる見込みです。
5	宮城県立がんセンター	○	○	○	○	○	緩和ケアセンターのメンバーが毎週最低1回集合し、ミーティングを開き情報交換を行っている	緩和ケア研修会の修了医師が9割を越えた。苦痛のスクリーニングの対象患者さんを入院・外来ともに徐々に拡大中。
6	秋田大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	コンサルテーション活動において目標とプランを明確に設定し、最終後にアウトカム評価とプロセス評価を行う	・苦痛のスクリーニング実施状況を把握し、プロセス評価は行っているが、アウトカム評価までは至っていない。 ・病棟スタッフとのカンファレンスを行い、ケア内容や目標達成度について評価を行う。
7	山形県立中央病院	○	○	○	○		問題点:緩和ケアセンターまたは緩和ケアチームの活動情報の集積はしているが、分析、評価が難しい	病棟での苦痛のスクリーニング、カンファレンスをしっかり行なわれているが、外来での苦痛のスクリーニングの施行率が悪い
8	福島県立医科大学附属病院	○	○	○	○		患者スクリーニングの対象病棟を増し、痛みやつらさに関する情報を得てフィードバックを行っている	緩和ケアセンターを移転拡大し業務を行いやすくします(28年12月)。
9	茨城県立中央病院	○	○	○	○		苦痛のスクリーニング用紙を見直し情報収集しやすくした。スクリーニング実施するタイミングや評価について課題と考える。情報収集、介入、分析・評価するためのマンパワー不足。外来患者への介入が実施できていない。	・看護師に対する緩和ケア教育テキスト(日看協)に基づいて、研修会開催(6回シリーズ、院内・院外に公開公募)。 ・県央緩和ケア事例検討会を2回/年開催(地域の医療機関や施設・訪問看護・薬局等)。

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和ケアセンター・緩和ケアチームで定期的な症例検討・カンファレンスを行い、依頼された患者に対する活動を評価・改善している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を評価・分析している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している
							①緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み	②施設全体での取り組み
10	栃木県立がんセンター	○	○				1. 緩和ケアセンターメンバーが集まる運営カンファレンスを毎週月曜日に開催し、院内の緩和ケア体制の見直しと整備に取り組んでいる。 2. 緩和ケアセンターの在宅緩和ケアの推進については、1の運営カンファレンス内協議の結果、緩和ケアセンター専従看護師による患者家族サポートの取り組みとして開院以来初めて訪問看護を実施できた。運用マニュアルの作成には至っておらず今後の課題となっている。 3. 緩和ケアセンター開設にともない、緩和ケアセンター専従看護師による緩和ケア外来面談時の同席が行えるようになった。そのことから、緩和ケア病棟入棟前後の継続支援につながっている。緩和ケア科以外の外来面談への関わり及び緩和ケアチーム介入につながる外来患者支援が今後の課題となっている。	1. 入院、外来患者対象の苦痛のスクリーニングについては、スクリーニングから専門的緩和ケアの介入につながるケースが限られており、基本的緩和ケアの体制が概ね整備されていると考える。しかし、現在のスクリーニングによる患者のベネフィットの評価には至っていない現状とスクリーニングの手法が各部署看護師の業務負担感にならない取り組みとすることに苦慮している。 2. 緩和ケアに関する地域連携の取り組みとして、地域の病院や在宅療養支援診療所、ホスピス・緩和ケア病棟等の診療従事者と協働して、緩和ケアにおける連携協力に関するカンファレンスを月1回定期的に開催している。開催ごとのテーマ選定に苦慮している。
11	埼玉県立がんセンター	○	○	○	○	○	緩和ケアチームでアセスメントした内容について、主科(主には受け持ち看護師)にフィードバックしている。 緩和ケアスクリーニングを活用し、患者の苦痛に向き合い医療を提供するよう呼びかけている。	緩和ケアリンクナースで患者家族対象セミナーを開催することで、看護ケアの質の向上にもつなげている。
12	東京都立駒込病院	○	○	○	○	○	緩和ケアチームでの多職種カンファレンスの充実・緩和ケアセンターとして緩和スクリーニングシートから専門家への橋渡しの促進。スクリーニングシートをより普及させるためには、またよりタイムリーに支援を提供するにはマンパワー不足がある。	緩和ケアチームは1回/3年程度、チーム活動に関するアンケート調査実施。スクリーニングシートからのハイリスク患者への支援率をBSCに挙げ、病院全体で取り組んでいる。緩和ケアジェネラリスト研修の実施。
13	がん研究会 有明病院	○	○	○		○	問題>>評価指標を何にするか? 依頼件数は、現場の力が高まれば減少するかもしれない。緩和ケアセンターの評価指標は何か	
14	神奈川県立がんセンター	○	○		○		緩和ケアの質をどのように測定すればよいのか客観的な評価指標をどのようにすればよいのか悩ましい。	
15	山梨県立中央病院	○	○	○	○		【取り組み】緩和ケアセンターメンバーで平日毎朝カンファレンスを行い、PCU、一般病棟、外来の介入患者について、全員で緩和ケア介入状況を把握し方針を確認しあっている。【問題点】緩和ケアセンターの体制は整い活動しているが、介入した効果・質を評価する必要性を実感している。具体的にはできていない。	【問題点】緩和ケアセンターへの看護職の人員配置が厚くなったことで施設全体からのニーズが多様化、著増し、質の担保が難しくなっている

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和ケアセンター・緩和ケアチームで定期的な症例検討・カンファレンスを行っている。依頼された患者に対する活動を評価・改善している。	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を評価している。	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している。	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している。	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している。	緩和ケアに關連する薬剤・医療機器・医療器具などの院内における使用状況を把握し、分析している。	①緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み
16	新潟県立がんセンター新潟病院	○	○	○	○		「具体的な取り組み」や「工夫していること」 緩和ケアチームカンファレンスは毎週開催し、可能な限り主治医・担当看護師その他と共同で意見交換を行うが、no blame, no shameを徹底して行い自由な意見を聞くことを目標にしている。しかしそれだけではなく、心理的問題やスピリチュアルニーズの話であっても翌週に行う実作業を結論にしている。 「問題点」 緩和ケアの質とはなにか？という根本的な疑問に、担当者自身、充分には答えられない。いわんやその管理については、多角的な評価を行うこと、という程度の考えしか持てない。	「具体的な取り組み」や「工夫していること」 センター組織とは別系統の、サポートケア委員会で、「命をめぐる連続講演会」を実施。スピリチュアルニーズや、薬剤や特定の手技に拘らない、より広い視点の講演を年4回実施している。 サポートケア委員会では、職種に関係せず、持ち回りでおおよそ5分以内のスピーチで自らの思う施設内緩和ケアの問題点、提案、疑問点を発表して、カイゼン活動につなげるべく準備中である 「問題点」 緩和ケアの質とはなにか？という根本的な疑問に、担当者自身、充分には答えられない。いわんやその管理については、多角的な評価を行うこと、という程度の考えしか持てない。
17	信州大学医学部附属病院	○	○	○	○		質の管理について、何を以て質を評価するのか苦慮している。	(問題点)苦痛のスクリーニング結果のフィードバック、スクリーニング後の状況変化の検証まで至っていない。
18	富山県立中央病院	○	○	○	○			
19	金沢大学附属病院	○	○	○			病棟看護師、主治医等との合同カンファレンスの開催	実存的苦痛に対するがん哲学外来の普及
20	福井県立病院	○	○				在宅でPCAポンプを使った苦痛管理を推奨している。	院内の医師にPCAポンプを使用して在宅へ移行することの考えがなかなか浸透していかない。
21	岐阜大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○苦痛のスクリーニングの実施状況と患者の苦痛の状態を評価し、緩和医療チームで課題について検討を行い、取り組める改善策から取り組んでいる。現在、入院患者に対してのスクリーニングは定着できたと評価できる。今後は、苦痛を求める患者への適正な介入と評価の質を上げる取り組みが必要である。 ・部署と緩和医療チームとの役割の明確化 ・苦痛の対応を求めている患者のモニタリングと病棟スタッフとのカンファレンス	○がんに携わる医療従事者が緩和研修を受けることを目標に挙げ、今年度より研修開催回数を増やし、病院長はじめ科長の受講を促した。研修医に対しては、数年前より受講を必須としている。その結果、昨年度より受講率が上昇した。しかし、大学病院という背景より医師の配置換えが頻回であり、継続して研修の周知と受講の動機づけを行うことが課題である。 ○看護師への教育は、看護部を中心にがん看護研修をラダーに合わせ企画し、段階的に学べる仕組みづくりをしている。 ○がん患者相談支援センターと協働し、患者への学習会を企画し、患者と家族が学べる場を提供している。 ○病院施設内でのリレーフォーライフ開催を受け入れ、支援をしている。
22	静岡がんセンター	○	○	○	○	○		
23	愛知県がんセンター中央病院	○	○	○	○	○	週1回のカンファレンス以外にも、毎朝ミーティングを行い困難事例等について検討している	週1回、苦痛スクリーニング結果およびその後の対応を集計・確認し、現場で基本的緩和ケアが提供できるよう働きかけている。 集計・確認作業を行うなど専従の事務職配置を義務付けるような診療報酬または要件の変更をお願いしたい。
24	三重大学医学部附属病院	○	○	○			活動内容・状況の実績評価につながる情報収集が不十分	①に同じ
25	滋賀県立成人病センター	○	○	○	○		今年度は、緩和医療学会から提案のあった「PTCセルフチェックプログラム」に参加しPTCの質向上に向けて取り組んでいる。	・病院機能評価のホスピス付加機能の受審を計画している。 課題：一般的緩和ケアの普及が滞っている。 ・診断の時期からの緩和ケアの提供は、システムとして整っていない。

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和センター・緩和ケアチームで定期的な症例検討・カンファレンスを行っている	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアに活用する薬剤・医療機器・医療器具などの院内における使用状況を把握し、分析している	①緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み
26	京都府立医科大学附属病院	○	○	○	○	○	緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、小児緩和ケアチームとの毎週1回のカンファレンス	地域関連施設の診療所、病院、などに対して、症例検討会、学術講演回等を開催し、また、週一回の緩和医療カンファレンス開催や内容を全学メール、地域関連メイリングリストを通じて、発信している
27	京都大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	緩和医療マニュアルを作成している。	定期的に勉強会を開催している。
28	大阪府立成人病センター	○	○	○	○	○	・緩和ケアチームで介入していた患者に対して退院後も継続介入が必要かどうかをアセスメントし必要なら看護外来でフォローしている ・院内の職員に緩和ケアセンター・チームの活動を周知するために3ヶ月毎にニュースレターを定期発行している。	・初診来院時のすべての患者にリーフレット「がんとわかったときからはじまる緩和ケア」を配布し、緩和ケアおよび自施設で受けることができる緩和ケアについての情報提供をしている。
29	兵庫県立がんセンター	○	○	○	○	○	病棟ラウンド後のアウトカム評価、苦痛のスクリーニング対応後のフォロー、データ化	勉強会の開催、緩和ケアマニュアルの作成、配布
30	奈良県立医科大学附属病院	○	○	○	○	○		
31	和歌山県立医科大学附属病院	○	○	○	○	○	取組:スクリーニング結果から苦痛の大きい患者についての情報を把握し、必要に応じて病棟Ns.と連携を図り緩和ケアが提供できるようにしている。 問題点:外来患者に対する緩和ケアチーム介入体制が不十分	問題点:各科目の理解・協力について、改善の余地がある(緊急緩和ケア病床の運用等)。
32	鳥取大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	チームメンバー個々の診療能力向上 ②スクリーニングを一部の部署で開始している	緩和ケア運営委員会を定期的に開催して、質の評価や取り組みを検討している。
33	島根大学医学部附属病院	○	○	○	○	○		
34	岡山大学病院	○	○	○	○	○	週1回の多職種ケアチームの患者カンファレンス。多職種からの意見を出してもらうために机の配置をかえ、順番に発言してもらうようにしている。週1回の緩和と管理カンファレンス 問題患者の抽出、オピオイドの処方量の把握など。オピオイド回診。ケアチーム介入によるアウトカム調査。改善しない患者の問題点抽出。	緩和ケア講習会参加を義務化。
35	広島大学病院	○	○	○	○	○	リンクナースを配置し、チームとの連携とともに質の確保をめざして活動している。また、医師・看護師対象の研修会を定期的実施している。患者・家族には、イベント等を通じて緩和ケアの理解普及活動を行っている。苦痛のスクリーニングの精度を高めるために、より多くの患者に質問用紙が手渡されるように、会議などで周知している。しかし、医師から患者に手渡される数が少なく、課題である。	今年度病院長の許可を得て、チーム室を改修し、データ管理や評価などを行いやすいようにインフラを整備した。また、他病院からの実習受け入れや研修受け入れを容易にした。
36	山口大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	個別の対応のみで、定期的にSTAS-Jで評価する等の評価が出来ていない	PDCAサイクルが回っていない
37	徳島大学病院	○	○	○	○	○	入院時、スクリーニングシートを用いて苦痛のスクリーニングを実施している	
38	香川大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	日本緩和医療学会の緩和ケアチームセルフチェックプログラムを取り入れて、チーム活動を評価している。	
39	四国がんセンター	○	○	○	○	○	毎日チーム内でミーティングを行い、依頼患者さんについて情報共有している	・苦痛のスクリーニングのデータ管理、・研修を行った後の変化の把握(例えばせん妄ケア研修後のせん妄患者さんの割合の変化などのデータ把握)

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和センターの改善を行っている	緩和ケアセンターの収集・分析している	公緩和ケアセンターの公開している	緩和ケアセンターの公開している	緩和ケアセンターの公開している	①緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み	②施設全体での取り組み
40	高知大学医学部附属病院	○	○				チームの介入内容を評価・分析するために、チーム独自のデータベースを構築しているが、今年度その項目を見直しするとともに、電子カルテから自動的に抽出できるようなシステムを検討中。具体的には、依頼時の一次緩和ケア内容やチーム介入開始時に新たに指摘された問題、チームが実施したケア内容などを評価することで、今後の質改善に繋げたいと考えている。現段階ではデータの抽出にとどまっているのみであり、今後はデータの評価・分析を進めていく予定である。	緩和ケアセンターが中心となって、緩和ケアスクリーニング事業、オピオイド導入クリニカルパスの開発を行っている。「苦痛のスクリーニング」に関しては、最終的に院内全診療科に適用させていくことを目標として、本年度より段階的に実施する診療科を拡大しているが、部署間で協力体制にかなりの温度差がある。これは、職員一人一人に本事業の必要性や重要性の理解が十分に得られていないことが要因と考える。施設全体に理解協力を得られるようこのようにアプローチを行っていくが課題である。また、オピオイド導入クリニカルパスについては、オピオイドの使用状況、副作用の状況などのデータ集約と各診療科でのオピオイドの使用状況を把握していく予定である。スクリーニングやクリニカルパス、その他の緩和ケアに関連する薬剤の使用状況や、緩和ケアチーム介入患者のデータ集約など緩和ケアセンター実務者が実施している状況であり、データの集約、管理においては当院情報センターへ委託し、施設全体で取り組んでいきたいと考える。
41	九州大学病院	○	○	○	○		緩和ケアマニュアルの作成、改訂 人員不足	緩和ケアマニュアルを冊子として配布、院内ホームページに公開 緩和ケアリンクナース養成
42	九州がんセンター	○	○	○	○	○	・緩和ケア勉強会の実施 ・緩和ケア委員(診療部、看護部)による緩和ケア作業部会の活動 ・入院における苦痛スクリーニングによる緩和ケアチーム介入への連携の推進	・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)による意思決定支援の推進。 ・苦痛スクリーニングの外来における取り組みが、マンパワー不足で推進に苦労している。
43	佐賀大学医学部附属病院	○	○	○			プライマリケアチームとコミュニケーションが不足しており、時間がないなかでどのようにしていくことが必要か	痛みの相談が8割を占め、治療の意思決定支援にプライマリケアチームと協働することが難しい。
44	長崎大学病院	○	○	○	○	○	苦痛のアセスメントシートのスクリーニング後、ジェネラルマネージャーが部署のカンファレンスなどで情報共有やアセスメントを行い、がん看護外来等へと連携している。	週1回開催している緩和ケアセンターカンファレンスには、院内の多職種参加者のみならず、在宅医や長崎市役所市民健康部包括ケアの方々などにも参加してもらい、意見交換を行っている。
45	熊本大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	地域活動(市民公開講座等)を行うための資金が不十分。	緩和ケアの理解にバラツキがある。
46	大分大学医学部附属病院	○	○	○	○			
47	宮崎大学医学部附属病院	○	○	○		○	看護スタッフへ、疼痛コントロールやSTAS-JIについての出前講座をおこなっている。	緩和ケア研修会を開催し、施設要件満たすよう整備している。
48	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	○	○	○	○	○	問題点:事務員がいないためデータ管理に時間がかかる	

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動に関する情報を収集・分析している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動に関する情報を収集・分析している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している
49	琉球大学医学部附属病院	○	○	○			<p>①緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み</p> <p>・痛みのスクリーニングの意義について看護師へ講義を行った。 ・緩和ケア管理システムを活用し、介入患者のSTASJ評価・NRS推移などで質評価を行う取り組みを始めている。しかし、評価日が不定期であることや、NRSは病棟スタッフのスクリーニング入力に基づくため、評価方法の確立には至っていない。 ・各病棟における緩和ケアカンファレンスの定着、病棟緩和ケアリンクナースとの協働、教育・指導に取り組み、院内緩和ケアの質向上に努めている。 ・緩和ケアチームメンバーと依頼元診療科とのコミュニケーションが不足しており、チーム活動が不透明ととらえられている。 ・緩和ケアチームメンバー間で依頼患者のアセスメント共有、目標設定、行動計画の明確化に取り組んでいる。また、目標設定には依頼元診療科を含め検討する必要がある。 ・緩和ケアチームに放射線科医師・整形リハビリ医師も協力いただき、多職種によるチームアプローチに取り組んでいる。 ・緩和ケアセンター専従看護師によるがん看護外来での継続支援を行っている。外来スクリーニングは定着していないが、各外来担当看護師と情報共有し、介入が必要な患者へのケアがもれないよう取り組んでいる。 ・緩和ケアチームメンバー各々のスキルアップが必要。他院における緩和ケアチームの活動を学ぶ等。</p>	<p>②施設全体での取り組み</p> <p>・緩和ケアセンター、緩和ケアチームの活動に関する集計・分析内容を定期的に診療科・看護部へ報告している。 ・緩和ケアチーム加算を取れていないが、その他管理料等で実績につなげている。 ・外来スクリーニングが定着していない。外来看護師と運用方法について検討中。 ・外来における、抗がん剤や麻薬使用者のフォロー体制が不十分である。内服抗がん剤を新規導入する患者さんへの指導は薬剤師によって行われているが、その後の副作用モニタリング・対策のフォローなどが不十分である。院外処方となっている中、院外薬局による指導状況の把握も必要である。 ・地域包括ケアシステムが推進される中、患者・家族の意思決定支援や退院支援についての教育、研修が強化されているが、地域・制度についての知識がまだ不足している。また、医師対象の研修が少なく、医療チーム間で温度差が生じている。 ・院内研修で緩和ケアに関する研修は看護師対象のみである。医師対象の院内緩和ケア研修が不十分。 ・新人対象の緩和ケアに関する研修枠が少ない。全看護師対象の研修はあるが、個々のレベル、経験に合わせた講義組み立てが難しい。</p>
50	群馬大学医学部附属病院	○	○	○	○	<p><工夫していること></p> <p>・苦痛のスクリーニングの定着を目的に緩和ケアセンタースタッフが病棟のカンファレンスに定期的に参加し、緩和ケアチームの早期介入に繋げている。 ・部署にもよるが、外来カンファレンスを可能な範囲で開催し、緩和ケア外来やIC同席、外来看護師のサポートに繋げている。</p> <p><問題点></p> <p>・苦痛のスクリーニングの定着・協力が得られず、全科対応になっていない。</p>	<p><工夫していること></p> <p>・緩和ケアセンターの専門・認定看護師の活用の周知を目的にカンファレンスに参加をしている。</p> <p><問題点></p> <p>・苦痛のスクリーニングが緩和ケアセンターが独自に行っている感がまだまだ強く、施設全体で取り組んでいるという認識が院内医療者に定着していない。 ・更なる周知が必要である。 ・緩和ケア＝緩和ケア病棟と思っている医療者(特に医師)がまだまだ多く、医療者の意識改革が必要である。 ・地域とのカンファレンスは地域連携部門が窓口となっているため、緩和ケアセンターの役割として求められても、業務が縦割りになっているため実際は携わることができていない。いかに、横の連携をはかるかが課題である。 ・緩和ケアセンターの維持(人員配置・センター化はしたが、人の移動等、マンパワー的に維持することの難しさ) ・緊急入院病床は固定病床でないため、地域の症状困難患者をダイレクトに受けることができない。 ・スクリーニングの集計がGMの仕事になる等、雑務から実践とGMの多重責務となりやすい。集計などを依頼できる専門の事務などがあるとよい。</p>	

No	施設	1)現時点の取り組み状況					2)「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等	
		緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動に関する情報を収集・分析している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動に関する情報を収集・分析している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開している	緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組み	施設全体での取り組み
51	千葉県がんセンター	○	○	○	○	○	日本緩和医療学会の緩和ケアチームセルフチェックプログラムを利用している。	緩和ケアセンターで苦痛のスクリーニング陽性の患者を追跡するなど行っている。
52	国立がん研究センター東病院	○	○	○	○	○	体験調査を1日実施	モニタリングについて、施設としての協力が重要
53	国立がん研究センター中央病院							

<都道府県の緩和ケア部会責任者>

1	北海道がんセンター							
2	弘前大学医学部附属病院							
3	筑波メディカルセンター病院							
4	独)国立病院機構 渋川医療センター	○	○	○	○	○	チームで介入している患者以外のオピオイド使用中の患者に対して、オピオイド回診を行っている。	問題点として、緩和ケアスクリーニングが全例で行えていない(一部の患者のみ)
5	国保直営総合病院君津中央病院	○	○	○				なるべく主診療科の診療スタンスは尊重しているつもりであるが、未だにPCT介入を煙たがる気配が払拭できていないように感じる。
6	川崎市立井田病院	○	○	○	○			
7	新潟市民病院	○	○	○	○	○	「問題点」質の評価手法がはっきりしないこと、「具体的な取り組み」週に2回は多職種カンファレンスを行っている。主治医チームに直接またはメールでこまめにコミュニケーションをとるようにしている。	「問題点」質の評価手法がはっきりしないこと、「具体的な取り組み」外来掲示板や病棟掲示板に緩和ケアチームの案内を目立つように掲示している。
8	福井大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	緩和ケアチームとしてセルフチェックに参加して質の評価と改善に取り組んでいる	がん治療中の患者さんには毎回苦痛に関するアンケートを行い、必要な支援を行っている。主治医にも情報提供している。
9	岡山済生会総合病院							
10	県立広島病院							
11	徳島県立中央病院							
12	三豊総合病院	○	○	○	○	○	当院には緩和ケア病棟があり緩和ケアチームと連動して機能している 緩和ケアの質向上に関して ① 日本ホスピス緩和ケア協会が推奨する「自施設評価」を2年毎に実施し自己評価による質向上に取り組んでいる ② 日本ホスピス緩和ケア研究振興財団が実施する「J-HOPE」に3年毎に参加し患者やご遺族の意見を参考に質向上を図っている。 ③ 日本医療機能評価機構の副機能「緩和ケア」を5年ごとに受審し、第三者の視点で質評価と改善に取り組んでいる ④ 緩和ケア医や院外講師を招いた勉強会を開催し院内の緩和ケア質向上を図っている	
13	医療法人聖愛会 松山ペテル病院							
14	九州大学病院							
15	友愛会 南部病院							
16	富山大学附属病院							

IV. 都道府県内の緩和ケアの質の向上について

No	施設	1) 現時点の取り組み状況							2) 都道府県内の緩和ケアの質の向上に関して、「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等
		に都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する責任者を決めている	に都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する業務担当者を決めている	を踏まえて、都道府県内の緩和ケアの現状	都道府県内の緩和ケアの課題や問題に基づき、都道府県内で達成すべき共通の目標を設定している	都道府県内の共通目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が連携行動計画を立案している	都道府県内の共通目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が連携行動計画の進捗状況を緩和ケア部会等で確認している	都道府県内で設定した目標達成状況について、緩和ケア部会等で評価している	
1	北海道がんセンター			○					H28年8月に北海道の緩和ケア部会を立ち上げたばかりなので、今後、問題や課題を整理し緩和ケアの質の向上を図るための検討を行っていく計画です。
2	青森県立中央病院			○	○	○	○	○	昨年度は互いの現状を知り緩和ケアの質の向上を図ることを目的として、がん診療連携拠点病院等が他施設の緩和ケアチームの活動等を見学する取り組みを行った。今年度はがん診療連携拠点病院における緩和ケア提供体制の機能強化や質の向上を図ることを目的として、がん診療連携拠点病院間でピアレビューを実施しており、県緩和ケア部会で結果等の報告を予定している。問題点について、県内の施設間での取り組みを比較・評価するため、統一指標として「痛みでできないことや困っていることはありませんか」をスクリーニング項目として設定している。しかし、施設間でスクリーニングの対象や頻度が異なっているため、適切な評価ができていないことが課題となっている。その他の要望として、PDCAサイクル確保のため、評価項目の設定や評価基準、実施方法等について、参考となる資料を提供していただきたい。
3	岩手医科大学附属病院	○		○					緩和ケア部会における話し合いは行っているが、具体的な共通の目標設定などは立ててはいない。岩手県緩和ケアテレビカンファレンスを毎月一回開催し、事例検討を中心に据え、圏内の緩和ケアの質の向上を目指している。
4	東北大学病院	○	○	○	○	○	○	○	ほとんどの地域拠点病院が人員不足に悩んでいます。
5	宮城県立がんセンター	○	○	○	○	○			県がん診療連携協議会緩和ケア部会内にPDCAワーキンググループを設け、関係者が話しあう場が出来ている。ピアレビューは当面実施しないことにした。
6	秋田大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	緩和ケア・教育研修部会を年に2回開催し、県内の拠点病院等の現状や課題、取り組みについて共有。部会内にWGを立ち上げ、課題解決に向けたサポートを行っている。年度末には各施設の課題達成状況について共有し、アウトカム評価を行う。また、メーリングリストを活用し、適宜情報共有や意見交換を行えるようにしている。
7	山形県立中央病院			○					① がん診療連携拠点病院間で緩和ケアに充てられる人員、財源に差があり、全体のレベルアップが難しい ② がん診療連携拠点病院以外の病院、クリニックでの緩和ケアの地域差、または各医療機関ごとの差が大きく、地域全体の緩和ケアのレベルアップが困難
8	福島県立医科大学附属病院	○	○	○					県内がん拠点病院全体のカンファレンスを福島県緩和医療研究会として現在年1回行っています。メール会議、テレビ会議など回数を増やす計画。福島県緩和ケア支援ネットワークに所属し緩和ケアに関する地域連携活動を運営しています。在宅ホスピスケアネット福島を共催し緩和ケアに関する地域連携活動を年6回行っています。
9	茨城県立中央病院			○	○				
10	栃木県立がんセンター			○	○				
11	埼玉県立がんセンター			○	○	○	○	○	年1回の緩和ケア部会開催。緩和ケアチームについて、自施設のセルフチェックおよび、目標を立案してもらい、紙面で提出、緩和ケア部会で共有。地域緩和ケアカンファレンス、地域緩和ケア勉強会のお知らせをMLで共有。
12	東京都立駒込病院								
13	がん研究会 有明病院	○	○						
14	神奈川県立がんセンター	○	○	○	○	○	○	○	人材不足に尽きると思います。人の手当てがままならない病院では質の向上について先に進まないことが多いようです。
15	山梨県立中央病院			○	○				がん診療連携拠点病院の要件を達成するために、緩和ケア部会では各拠点病院と課題の共有、達成状況等の確認を行ってきたが、質の向上までの目標設定には至っていなかった。今後の課題と考えている。

No	施設	1)現時点の取り組み状況							2)都道府県内の緩和ケアの質の向上に関して、「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等
		に都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する責任者を定めている	に都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する業務担当者を決めている	を緩和ケア部、会等で、都道府県内の緩和ケアの現状を踏まえて、課題や課題についての整理している	都道府県内の緩和ケアの課題や問題を設定している	都道府県内の共通目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が行動計画を立案している	都道府県内の共通目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が立案した行動計画の進捗状況を緩和ケア部会等で確認している	緩和ケア部会等で設定した目標達成状況について、緩和ケア部会等で評価している	
16	新潟県立がんセンター新潟病院	○	○	○					「具体的な取り組み」や「工夫していること」 ◆ 県からの委託事業として、がん看護実務者研修を実施。県内の病院より、希望看護師数名に対し、臨床実習を含む研修を実施している。 ◆ 連携する近隣県立病院に、センター看護師が定期的に出張し、特に緩和ケアに関する看護職員の質問や知識提供、カンファレンスを行っている。 ◆ 「問題点」 緩和ケアの質とは何か？という根本的な疑問に、担当者自身、充分には答えられない。いわんやその管理については、多角的な評価を行うこと、という程度の考えしか持てない。
17	信州大学医学部附属病院								(具体的な取り組み)がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院の緩和ケア医師、看護師(ジェネラルマネージャー)によるメーリングリストを作成し、お互いが都度相談できる体制を構築した。
18	富山県立中央病院			○					
19	金沢大学附属病院								実存的苦痛に対するがん哲学外来の紹介(一般市民, 医療者)
20	福井県立病院			○	○	○	○		
21	岐阜大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○岐阜県がん診療連携拠点病院協議会 緩和医療専門部会を年に2回運営し、第1回目に問題の把握を行い全体で取り組むことを検討した。その結果、各拠点病院の設置背景が異なり、共通した目標を挙げ取り組むことは今後の課題とすることとなった。このため今年度の共通目標は、まずは各拠点病院の課題に取り組むこととした。都道府県拠点病院として、各拠点病院がPDCAに取り組めるよう働きかけ、課題の共有、進捗状況を確認し、2回目の会議で報告を行う予定としている。 ○具体的な取り組みには至らずとも、各拠点病院の困難感などを共有し、各拠点が疲弊しないよう努めている。
22	静岡がんセンター								
23	愛知県がんセンター中央病院	○							緩和ケア部会でPDCAの確保について検討中。現況報告書の内容把握はできているが、現場の実情の把握には至っていない。
24	三重大学医学部附属病院		○	○	○				
25	滋賀県立成人病センター	○	○	○					滋賀県がん診療連携協議会緩和ケア推進部会で検討しているが、評価指標は「緩和ケア研修の受講率」のみであり、「緩和ケア」の質向上の活動は残念ながら実施できていない。
26	京都府立医科大学附属病院			○	○	○	○	○	緩和ケア部会の開催、メーリングリストによる情報共有、共同でのPEACE研修会開催、ELNEC-J研修会の年3回の共同開催、ピアサポートグループとの交流、講演会など
27	京都大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	京都府下の緩和ケア研修会を修了し事前登録をした勤務医/開業医を対象として、双方向遠隔講義による専門的緩和ケアの講義を系統的かつ定期的に受けていただける体制をとっている。
28	大阪府立成人病センター	○		○	○	○	○	○	大阪府は国指定地域がん診療連携拠点病院に加え大阪府指定のがん診療拠点病院が緩和ケア部会に所属しているため、緩和ケアに関して都道府県内で目標を設定する際に共通の課題と各施設の事情に即した課題を設定することとした。
29	兵庫県立がんセンター	○		○		○	○	○	県内44拠点病院の格差があること
30	奈良県立医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	
31	和歌山県立医科大学附属病院								取組・工夫:県協議会緩和ケア部会で各施設の活動状況及び実績を把握し、共有している。 問題点:県共通の目標設定や施設訪問といったレベルにまでは達していない。
32	鳥取大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	県内の緩和ケア部会と研修会を定期的で開催し、全体での取り組みについて検討し、メーリングリストを用いて意見のとりまとめを行っている。
33	島根大学医学部附属病院			○	○	○	○	○	

No	施設	1) 現時点の取り組み状況								2) 都道府県内の緩和ケアの質の向上に関して、「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等
		に都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する責任者を決めている	に都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する実務担当者を決めている	を緩和ケア部等で、都道府県内の緩和ケアの現状を踏まえて問題点や課題に課題について整理している	都道府県内の緩和ケアの課題や問題を設定している	都道府県内の共通目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が行動計画を立案している	都道府県内の共通目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が行動計画の進捗状況を緩和ケア部会で確認している	都道府県内で設定している目標	緩和ケア部会等で評価している	
34	岡山大学病院	○			○	○				緩和ケアの実施に伴うアウトカム評価を実施した。集計し問題点を抽出する予定 29年3月
35	広島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	広島県がん対策基本計画に則り、「治療の初期段階からの緩和ケアの推進」を重点的な取り組み課題として、広島県緩和ケア支援センターを中核に取り組んでいる。緩和ケア推進会議・緩和ケアチーム会議・緩和ケア人材育成委員会・地域在宅緩和ケア推進協議会等々多職種対象の研修会を実施している。
36	山口大学医学部附属病院									第1回目の県内の緩和ケア部会ができていないので、そこから始めなければならない。
37	徳島大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	緩和ケア研修会の講師／ファシリテーターの相互支援 問題点は緩和ケア部会の事務局、実務担当者が不明確です。
38	香川大学医学部附属病院			○						県内のがん診療連携拠点病院、緩和ケア病棟を設置している施設の緩和ケア実務者により香川緩和ケア研究会を定期的開催し、問題点等の討議、意見交換、情報交換を行っている。
39	四国がんセンター									・県の協議会で緩和ケア専門部会を年2回開催し、問題点の把握や今後の取り組みを共有、 ・緩和ケア病棟の看護師の連携を深めるための研修を企画、 ・緩和ケアに関連する研修を年1-2回企画し、県内の病院、訪問看護ステーション、居宅介護支援事務所に案内している
40	高知大学医学部附属病院		○							2016年9月から緩和ケア部会を発足したばかりであり、これから具体的な活動を検討・決定する。
41	九州大学病院	○	○	○	○					
42	九州がんセンター	○	○	○	○					工夫点：専門部会等では施設特性を考慮したグループ編成を行い検討できるようにしている。 問題点：緩和ケア地域連携パスやその運用手順について、在宅医等や患者家族の意見集約が難しい。
43	佐賀大学医学部附属病院									緩和ケア研修会は県の拠点病院で協力をしているが、その他、県全体の緩和ケアの質向上のための取り組みはまだできていない。
44	長崎大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	平成28年度からPDCAサイクル確保に向けて、県内のがん診療連携拠点病院間での訪問による相互チェックを開始した。
45	熊本大学医学部附属病院	○	○	○						
46	大分大学医学部附属病院									
47	宮崎大学医学部附属病院	○	○	○						宮崎県がん診療連携協議会の緩和ケア専門部会構成員見直しと小委員会の立ち上げ
48	鹿児島大学医学部・歯学部附属病	○	○	○	○	○				県拠点病院でもあり、県内で専従医師が確保されている施設が1か所しかないこともあり、情報発信や事例検討会等の企画・運営を行っている。
49	琉球大学医学部附属病院	○		○	○	○	○	○	○	・県内の緩和ケア病棟をもつ施設と交流会をもち、意見交換を行っている。 ・合同カンファレンスに参加し、地域在宅療養施設スタッフと情報交換を行っている。 ・地域連携病院医療者とのコミュニケーション ・緩和ケアに関する在宅ケア研修への参加 ・緩和ケア研修会への協力 ・看護学生や院外看護職種者への緩和ケアに関する講義担当 ・スタッフが兼任のため時間が十分ではなく、手厚いフォローが出来ているとはいいがたい
50	群馬大学医学部附属病院	○	○							・部会に所属している病院により特徴が異なるため、県内で共通の目標を設定すること自体が困難。
51	千葉県がんセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	施設により達成すべき目的に大きな差があるため、統一した目的が設定しにくい
52	国立がん研究センター東病院									
53	国立がん研究センター中央病院									

<都道府県の緩和ケア部会責任者>

V. 都道府県内の緩和ケアチーム等に関する教育支援について

No	施設	1) 都道府県内の緩和ケアチーム等を対象とした研修等、教育支援の実施	2) 1)で「実施予定」、「実施している(したことがある)」と回答された場合の教育支援の内容				
			①主催者・実施者	②対象者	③教育時間	④教育目標・内容	⑤困っていること
1	北海道がんセンター	予定なし
2	青森県立中央病院	予定なし
3	岩手医科大学附属病院	実施している(したことがある含む)	岩手医科大学附属病院 緩和ケアチーム	全ての医療者を対象に、随時見学、ラウンドの参加、ミーティングの参加を行っている。	.	.	.
4	東北大学病院	実施している(したことがある含む)	宮城県緩和ケア勉強会(有志の集まり)	宮城県内で緩和ケアに携わる医療者全般	年3回、各2時間	各回で緩和ケアに関するテーマを取り上げ講演や事例検討、施設紹介など	参加者の伸び悩み
5	宮城県立がんセンター	予定なし	.	.	.	研修と呼べるものではないが、各拠点病院のメンバーが集まって緩和ケアの勉強会をひらくことは定例化されている。	.
6	秋田大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	秋田県がん診療連携協議会 緩和ケア・教育研修部会	秋田県がん診療連携協議会の構成病院で緩和ケアを担当している実務者(緩和ケアセンター、緩和ケアチーム、緩和ケア外来等に携わる医療者)30名	4時間(平成28年9月11日 13:00~17:00開催)	目標: せん妄ケアを組織で行うことの意義を理解し、自施設や地域のせん妄ケアを推進できる 内容: 講義(せん妄の病態・症状・予防・治療・アセスメント・ケア)、ロールプレイ	県内全体で緩和ケア専従医師がほとんどいない影響もあり、医師の参加が少ない 拠点病院以外の施設との連携が十分ではなく、今後の課題である
7	山形県立中央病院	実施予定	山形県立中央病院	がん診療連携拠点病院の緩和ケアチーム	4時間	(教育目標) 緩和ケアチームの質の向上 (内容) 苦痛のスクリーニング、退院支援、院内連携の紹介等	.
8	福島県立医科大学附属病院	実施している(したことがある含む)	福島県緩和医療研究会	県内がん拠点病院緩和ケアチーム	年1回1時間(今年度は7月31日)	がん患者の身体的苦痛や精神心理的苦痛、社会的苦痛等のスクリーニングに関わる各施設の取り組みをPDSAサイクルを用いて相互に評価する	現状年1回開催なのでメール会議、テレビ会議など回数を増やす計画中。
9	茨城県立中央病院	実施している(したことがある含む)	茨城県立中央病院	地域がん診療連携拠点病院及び指定病院	1~2時間	見学を含む情報提供	PCTを含む研修会が開催していない。
10	栃木県立がんセンター	予定なし
11	埼玉県立がんセンター	実施している(したことがある含む)	当センター緩和ケア科医師	緩和ケアチーム医師など	1日	緩和ケアチーム1日研修	応募が少ない(多忙に加えて、教育の必要性を自覚していない可能性)
12	東京都立駒込病院	予定なし
13	がん研究会 有明病院	予定なし
14	神奈川県立がんセンター	予定なし
15	山梨県立中央病院	予定なし
16	新潟県立がんセンター新潟病院	予定なし
17	信州大学医学部附属病院	実施予定	信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 名称「長野県がん診療連携拠点病院等緩和ケアチーム研修会」	長野県のがん診療連携拠点病院等の緩和ケアチームのメンバー	平成29年3月25日(土) 9時~16時	講義やグループワークを通して、がん診療連携拠点病院の緩和ケアチームが抱える困りごとについて、具体的な課題解決を検討するとともに、各施設が今後の活動計画を立案することを目標としている。	.
18	富山県立中央病院	予定なし

No	施設	1) 都道府県内の緩和ケアチーム等を対象とした研修等、教育支援の実施	2) 1)で「実施予定」、「実施している(したことがある)」と回答された場合の教育支援の内容				
			①主催者・実施者	②対象者	③教育時間	④教育目標・内容	⑤困っていること
19	金沢大学附属病院	実施している(したことがある含む)	金沢大学附属病院緩和ケアセンター	県内拠点病院で緩和医療に興味ある医療者	1時間	緩和医療の理解を深める。スクリーニング、コミュニケーション、がん哲学	参加者は多くない。
20	福井県立病院	予定なし
21	岐阜大学医学部附属病院	予定なし
22	静岡がんセンター	予定なし
23	愛知県がんセンター中央病院	予定なし
24	三重大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	三重県、三重大学医学部附属病院	三重県内の緩和ケアに携わる医療チーム	8時間	緩和ケア基本研修会の「フォローアップ研修」としてend of lifeに関する知識と技術を習得する	コンサルテーションに関する研修も実施したい
25	滋賀県立成人病センター	予定なし
26	京都府立医科大学附属病院	実施している(したことがある含む)	京都府立医科大学附属病院緩和ケアセンター・京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室	京都府在住緩和ケアおよび“がん”診療関係医療者	約40時間/年	“がん”診療実務研修、緩和ケアの実務教育、運営法の伝授、	.
27	京都大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター	緩和ケア研修会を修了した方	2016年7月9日(土)12:15~18:00、7月10日(日)8:45~17:30	PEACEを補完するために、意思決定支援の倫理的・法的基礎を専門家に依頼し、ロールプレイも強化して、より充実を図る。	年複数回の開催が困難
28	大阪府立成人病センター	実施している(したことがある含む)	大阪府がん診療連携協議会緩和ケア部会	大阪府緩和ケア部会所属施設(国指定地域がん診療連携拠点病院、大阪府指定のがん診療拠点病院)の医療従事者 各施設3職種3名	半日	平成28年度は大阪府内のせん妄ケアの向上のため多職種でせん妄ケアにどう取り組むか講義およびグループワークを予定している	所属施設数が多いため、各施設のPEACE研修会と重複しない日程の調整
29	兵庫県立がんセンター	実施している(したことがある含む)	緩和ケア部会	緩和ケアチーム	3時間	不眠・せん妄、PDCAサイクルに基づいて緩和ケアを普及させる	病院間の温度差
30	奈良県立医科大学附属病院	実施している(したことがある含む)	奈良県立医科大学附属病院 緩和ケアセンター 緩和ケアセンター長 四宮 敬章	奈良県内の緩和ケアチームに所属している医師・看護師・薬剤師・地域連携担当者等	年1回 / 7時間30分(休憩時間含む)	目標(研修のねらい) ・緩和ケアチーム同士で討議や情報交換を行う中で、自施設の課題を明確にし、今後の活動のヒントが得られる。 ・緩和ケアの質の向上のための教育の場となる。 内容 ・講義、講演、緩和ケアチームの活動の評価に関するグループディスカッション等	.
31	和歌山県立医科大学附属病院	実施している(したことがある含む)	和歌山県がん診療連携協議会	県内施設で活動する緩和ケアチーム	約7時間	目的:コンサルテーションに関するスキル・専門的な知識を習得し、各施設での緩和ケアチーム活動の充実を図ることで、地域における緩和ケアの質的充実及びがん医療の均てん化に資すること。 内容:講義形式及びグループワーク形式	今年度はSHARE-CST研修会を開催するため、緩和ケアチーム研修会については開催見込みが立っていない。
32	鳥取大学医学部附属病院	予定なし

No	施設	1) 都道府県内の緩和ケアチーム等を対象とした研修等、教育支援の実施	2) 1)で「実施予定」、「実施している(したことがある)」と回答された場合の教育支援の内容				
			①主催者・実施者	②対象者	③教育時間	④教育目標・内容	⑤困っていること
33	島根大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	主催責任者:島根県知事,企画責任者:県立病院医師	島根県内の医療従事者	全日(9:00~17:15)	緩和ケアフォローアップ研修会として教育支援を行った	
34	岡山大学病院	実施している(したことがある含む)	岡山大学病院緩和支援医療科	医療従事者	毎月1回	各回のテーマに関する知識と技術が習得し実行できる。	時間的に参加が難しい病院がある。
35	広島大学病院	実施している(したことがある含む)	広島県緩和ケア支援センター・広島大学病院	医師・看護師・薬剤師	医師派遣コース:2週間 看護師専門コース:2日間 薬剤師:2日間	緩和ケアの質の向上:スキルアップ研修、フォローアップ研修	認定看護師養成コースが県内になく、人材確保が困難
36	山口大学医学部附属病院	予定なし					
37	徳島大学病院	実施予定	徳島県、徳島県徳島県医師会、徳島がん診療連携協議会(緩和ケア部会)	緩和ケア研修会の修了者と県内緩和ケアチームメンバー	3時間	新しいオピオイド(メサドン、タベンタール)、各施設での取り組み紹介	若い緩和ケア専従医の候補者が出てこない
38	香川大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	三豊総合病院 細川敦之(香川県がん診療連携協議会 緩和医療部会長)	県内のがん診療連携拠点病院の緩和ケアチームと県内の緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを専門とする医師等	2ヶ月1回、2時間程度	目標:緩和ケアチームでの横のつながりを強化する(情報交換、相談など)。お互いに成長し合える場とする。内容:事例検討など	
39	四国がんセンター	実施している(したことがある含む)	四国がんセンター緩和ケアセンター、中四国がんプロ	緩和ケアチームスタッフ(県外からのみの参加)	1週間または2日間	目的:緩和ケアチームの質の向上 内容:定期カンファレンスへの出席 緩和ケアチーム、病棟、外来、相談支援、地域連携室の役割を見学 苦痛のスクリーニングマニュアルの紹介 地域における役割の紹介	県内からの参加がなかった
40	高知大学医学部附属病院	予定なし					
41	九州大学病院	予定なし					
42	九州がんセンター	実施している(したことがある含む)	厚生労働省・九州がんセンター緩和ケアチーム	聖マリア病院;医師2名・看護師1名 長崎原爆病院;看護師1名・薬剤師1名・栄養士1名	1日(8:30~17:15)	目標:対象施設の緩和ケアチームの質の向上 内容:緩和ケアチーム実地研修	丸々1日、緩和ケアチームメンバー3~4名が対応するための時間を割かれる。
43	佐賀大学医学部附属病院	予定なし					
44	長崎大学病院	予定なし					
45	熊本大学医学部附属病院	予定なし					
46	大分大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	主催者:大分大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 事務局 実施者:川崎医科大学 臨床腫瘍学 山口佳之教授	院内スタッフ。地域がん診療連携拠点病院。	2時間。	「がん疼痛の治療と地域在宅連携」	広報は行ったが、参加人数が少なかった。
47	宮崎大学医学部附属病院	実施予定	1) ELNEC ELNEC-J 2) 緩和ケア部会の小委員様	1) 宮崎県内の看護師 2) 宮崎県内で活動している緩和ケアチーム	1) 月1回90分 10回 開催 2) 年1回	1) エンドオブライフケア 2) PCTのネットワーク構築と連携、県内の緩和ケアのスキルアップ	県内のPCTの現状把握ができていない。チームの連携ができていない。
48	鹿児島大学医学部・歯学部附属病院	実施している(したことがある含む)	鹿児島大学病院緩和ケアセンター 松下格司	県内の緩和ケアチームメンバー	415分	緩和ケアに関するさらなる質の向上のために追加モジュールを中心に研修	
49	琉球大学医学部附属病院	実施している(したことがある含む)	琉球大学医学部附属病院がんセンター	医療関係者(緩和ケア研修会修了者)	1日	緩和ケアフォローアップ研修会	
50	群馬大学医学部附属病院	予定なし					
51	千葉県がんセンター	予定なし					
52	国立がん研究センター東病院						
53	国立がん研究センター中央病院						

No	施設	1) 都道府県内の緩和ケアチーム等を対象とした研修等、教育支援の実施	2) 1)で「実施予定」、「実施している(したことがある)」と回答された場合の教育支援の内容			
			①主催者・実施者	②対象者	③教育時間	④教育目標・内容

<都道府県の緩和ケア部会責任者>

1	北海道がんセンター					
2	弘前大学医学部附属病院					
3	筑波メディカルセンター病院					
4	独)国立病院機構 渋川医療センター	予定なし
5	国保直営総合病院君津中央病院	
6	川崎市立井田病院	予定なし
7	新潟市民病院	予定なし
8	福井大学医学部附属病院	予定なし
9	岡山済生会総合病院					
10	県立広島病院					
11	徳島県立中央病院					
12	三豊総合病院	予定なし
13	医療法人聖愛会 松山ペテル病院					
14	九州大学病院					
15	友愛会 南部病院					
16	富山大学附属病院					

第 4 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会 事前アンケート
(各施設で一部、緩和ケアの実務担当者の方がご回答ください。)

第 4 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会では「院内緩和ケアの質の管理」「都道府県内の緩和ケアの質の向上」等について情報共有する予定です。当日の情報共有を円滑にするため、事前アンケートへのご協力をお願い申し上げます。なお、アンケートの集計結果は、部会等で公表することをご了承下さい。

このアンケートでは、都道府県内のがん診療連携拠点病院の PDCA のサイクル確保についてお伺いします。

選択式の設問は、該当する番号に○を付けてください。

I. まず、ご回答いただいている方、ご自身の情報をご記入ください。

施設名		所属部署名	
お名前		E-mail	

II. 都道府県名をご記入ください。

--

III. 施設内の緩和ケアの質の管理についてお伺いします。

1) 以下の各項目について、現時点の取り組み状況で該当する番号に一つ○を付けてください。なお、回答はご所属施設の取り組みについてご回答ください。

	行っていない	行っている
○ 緩和センターもしくは緩和ケアチーム内で定期的に症例検討・カンファレンスを行い、依頼された患者に対する活動を評価・改善している	1	2
○ 緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの活動に関する情報(疾患名、依頼理由、依頼数など)を収集・分析し、緩和ケアセンター・緩和ケアチームの活動を評価している	1	2
○ 緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの活動を院内・地域に公開(または発表)している	1	2
○ 緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの年次診療実績を把握し、公開している	1	2
○ 緩和ケアに関連する薬剤・医療機器・医療器具などの院内における使用状況を把握し、分析している	1	2

2) 施設内の緩和ケアの質の管理に関して、「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等がございましたらご自由にご回答ください。

① 緩和ケアセンターもしくは緩和ケアチームの取り組みに関して

--

② 施設全体での取り組みに関して

--

IV. 都道府県内の緩和ケアの質の向上についてお伺いします。

1) 以下の各項目について、現時点の取り組み状況で該当する番号に一つ〇を付けてください。なお、回答は一部の施設に特化した取り組みではなく、都道府県全体での取り組みについてご回答ください。

	行っていない	行っている
○ 都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する責任者を決めている	1	2
○ 都道府県内の緩和ケアのPDCAサイクルの確保に関する実務担当者を決めている	1	2
○ 緩和ケア部会等で、都道府県内の緩和ケアの現状を踏まえて、問題や課題について整理している	1	2
○ 都道府県内の緩和ケアの課題や問題に基づき、都道府県内で達成すべき共通の目標を設定している	1	2
○ 緩和ケアに関して都道府県内で設定した共通の目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が行動計画を立案している	1	2
○ 緩和ケアに関して都道府県内で設定した共通の目標達成のために、各がん診療連携拠点病院等が立案した行動計画の進捗状況について、緩和ケア部会等で確認している	1	2
○ 緩和ケアに関して都道府県内で設定した目標達成状況について、緩和ケア部会等で評価している	1	2

2) 都道府県内の緩和ケアの質の向上に関して、「具体的な取り組み」や「工夫していること」、または「問題点」等がございましたらご自由にご回答ください。

--

V. 都道府県内の緩和ケアチーム等に関する教育支援についてお伺いします。

1) 都道府県内の緩和ケアチーム等を対象とした研修等、教育支援を実施していますか。

1. 現時点で実施の予定はない	2. 実施予定	3. 実施している(したことがある)
-----------------	---------	--------------------

2) 上記で「2. 実施予定」、3. 「実施している(したことがある)」と回答した方にお伺いします。
実施された(予定含む)教育支援の内容についてご回答ください。

1. 主催者・実施者	
2. 対象者	
3. 教育時間	
4. 教育目標・内容	
5. 困っていること	

アンケートは以上です。ご協力誠にありがとうございました。